

YouTubeで
オリジナルセミナー動画が見られます!

随時
更新

～普通の社労士では
教えてくれない人事労務のこと～



労使トラブル・労働組合折衝

強い!

熱血
講義!

事務所代表佐賀豊が

登録・視聴 無料

[会員登録]



ウェブセミナーご登録はコチラ!

ウェブセミナー会員にご登録いただくとこれまでに開催したすべてのZOOMセミナーが全て視聴できます。ぜひご登録ください!

社会保険労務士法人 佐賀事務所 株式会社 佐賀人事総研 〒115-0045 東京都北区赤羽1-10-11 ショーエービル TEL.03-5249-3326

労使相愛を実現する会

～伝説の社労士事務所と呼ばれたい～

社会保険労務士法人 佐賀事務所
株式会社 佐賀人事総研
TEL.03-5249-3326

2024
October
10月号
第76号

- 1 人材を採用・育成して「依存関係」を断つ!!
- 2 経営者は、在職15年以上の社員は特別な存在という意識を持ってほしい
- 3
- 4 オリジナルセミナー動画が見られます!

発行元: 社会保険労務士法人 佐賀事務所 株式会社 佐賀人事総研 赤羽の社労士ブログ <https://ameblo.jp/saga-sr/>

20社労士開業 20周年達成 7317日 断酒してから 2235日 断煙してから 6983日

皆様、いつもお世話になっております。

今年2回目の減食が終了(9/4)しました。31日間全93食、空腹感を耐え忍び、ときには精神面のもろさを感じながらも、今回も成し遂げることができました。体重の減少は5.2kg。カロリー換算すると37,440kcalを体外に放出したことになります。1日のアベレージで約1,200kcal。減食中も週に5～6日のトレーニングを課しているため、激しく動きながらの減食は決して楽な「行」ではありません。

自分に負荷(=ストレス)を課すということ。

先の見えない絶望的な負荷は精神を害する危険性がありますが、その先に「幸」が見える、期間を限定しての負荷は、プラス効果が断然に高いと私は感じています。

我慢よりも避ける・逃げるのが推奨される時代……。

人は時代の変化に「気」が容易に流されてしまう生き物であるとする、それに抗う術のひとつとして、あえて自分に負荷を課すことは必要善であると思うのです。



負荷を乗り越えた先にあるのは、「達成感・自信・感謝する心の高まり」等々。毎回、素敵な褒美をたくさんいただけます。ただし、それは一度やれば未来永劫続くものではありません。しばらくすると、どれもこれも知らぬ間に薄れてしまいます。いったん身につけても磨き続けないと陳腐化してしまうのは「仕事能力」と同じですね。

真っ白な銀飯を見るだけでよだれが出て、口に入れた瞬間<涙腺の固さには自信があるのですが>涙が

自然と出てくる……。

時と場合、ケースにもよりますが、満足の閾値は高いよりも「適正以下」のほうが人は幸福感をより感じられるのかもしれませんが。

「ありがとうございます! 感謝しています!」を自然体で発するためにも、自分に負荷を課すことから「避ける・逃げる」ことがないようにしたいと思っています。

人の問題に苦慮している経営者・経営陣は少なくありません。程度の差こそあれ、全員がその憂き目にさらされていると言い切ってしまうのは間違いのないのです。有事にはスクラムを組み、最前線で支援することを社労士道の銘としている私としては、経営者・経営陣の防波堤となり、課題の卒業・無血解決に向けて日々奮闘しています。多くのトラブル事案を通して、確信に変わったことがあります。それは「会社にとって価値ある人材」は、何かあるとあっけなく辞めてしまうということ。人は必ずしも合理的な判断ができる生き物ではありません。辞めてしまった後に、バラ色の働き場が待っている確証があるわけではないのです。会社にロスを与える退職は、因果応報の法則からも必ず本人にロスをもたらすことでしょう。

会社にとって価値ある人材を育成することは、企業の生き残り・勝ち残り戦略上必須です。人材を採用・育成して「依存関係」を断つ!! 昭和平成の時代とは違い、代わりが採用できる時代ではありません。依存関係を断つことは会社のメリットになるだけでなく、本人のキャリアアップにも直結すると思うのです。ウィン・ウィンの関係を成立させるためにも「人事労務管理の神髄を究める」のです。私も顧問先企業の問いに、力強い解決力で応えられる社会保険労務士を目指します。

今月も「充実」を合言葉に、マイベストペースで飛ばして行きます!

佐賀豊



経営者は、在職15年以上の社員は特別な存在という意識を持ってほしい

在職15年以上の社員は会社にとって生涯の仲間のような存在で、会社に骨をうずめる覚悟で人生を賭しているのです。

在職15年以上の社員が辞めることはほとんどない

顧問先を見ていると、在職が15年以上の社員が辞めることはほとんどありません。20年以上になると、その傾向はより顕著になります。そして、15年以上勤めている方は会社にとって生涯の仲間のような存在であり、その会社に骨をうずめる覚悟で人生を賭している。そういう方が多いと思います。

私は顧問先の社長と話をすることも多いのですが、社員が100人を超える規模の会社では役員や幹部社員が相手となり、社長と話をする機会が減ります。在職歴が長い幹部社員とのつき合いも多いのですが、そうした方もまず辞めません。人生を賭けて自分の仕事に向き合っていると感じられます。

経営者は長年勤めている社員を特別な存在と見なければいけない

私は今、社長をやっています。自分の経験上からも、社長とは決して逃げられないというリスクを背負っています。私もそうですが、社長は会社に辞表を出して逃げ出すことなどできません。

逃げられないという大きなリスクを抱えている経営者が大切にすべきは、長年勤めている社員です。30年、40年という現役時代の半分近くや半分以上、あるいは最後まで添い遂げようという方たちを、経営者は特別な存在と見なければいけない、特別な存在として扱わなければいけないと私は思います。

「人生の勝率」を題材にコミュニケーションを取る

在職が15年あるいは20年を超えた方は、人生を賭けてその会社に勤めています。定年まで勤めあげようと考えている方も多いでしょう。経営者は逃げられないというリスクを背負っていますが、在職が長い社員も逃げない・逃げられないという意味では、同じとまでは言えないけれども同じ仲間であり、同じリスクを背負って一緒に生きているのです。経営者はこの点を認識する必要があります。この事務所通信を読まれる社長さんも多くいます。まず、このことを今月のメッセージとしてお伝えします。

それでは、経営者は具体的に何をすべきか。在職15年を超えると幹部社員になっている方も多いでしょう。社長としては、彼らとコミュニケーションをはかる際のテーマの一つとして、あるいは相手がどんな人なのかを知るには、その方にとって「人生の勝率」とは何かを話題にするといいたいでしょう。

今の私の人生の最高の勝率は、社労士道で活躍すること

私にとって人生の最高の勝率、すなわち私の夢としては無記名の信託があります。区議会議員や市議会議員から始めて国会議員になりたいという思いが、今でも少しあります。学生時代の私は、世の中の最高道徳が政治にあると捉

えていました。その頃はまだ人生の勝率ということは考えていなかったのですが、最高の人生を歩むとは最高道徳に生きることだと思っていました。

現在、私は契約の成約によって記名の信託をされ、お金をいただいてその人のために働いています。ただ、今でも誰が自分の名前を書いたのかかわからない世界で働くことはすごいなと、羨ましく思っているところもあります。しかし、今の政治は国会でもさまざまな問題があるように、最高道徳とは思えない状況になっています。そう考えると、今の私にとって人生の最高の勝率とは記名の信託、社労士道に身を置いて社労士道で活躍すること。これが私の人生の勝率と考えています。

幹部社員でも自分の人生の勝率を考え切れていない人が多い

経営者と話をする際に人生の勝率についてうかがうと、会社の業績を安定させ、売上げを伸ばしていくこと。賃金も多く払えるようにする。経常利益に正常化させ、有利子負債をできるだけ少なくして自己資本比率を高める。それらを実現するためにも、やはり人は重要という話をされます。多くの社長と話しても、最大公約数でそれらが押さえるべきポイントとして出てきます。

経営者とは、目に見えない中で敷かれたレールに乗っている面もありますが、自分の裁量権によりどのレールに乗るか、どこで下車するかを決めることができます。つまり、自由を感じることもできます。一方、幹部社員の方はあくまでも宮づかいの立場にあります。もちろん、宮づかいが悪いと言っているのではありません。宮づかいであるがゆえに、いまに集中して生きながらも、将来に不安を感じているかもしれません。その理由は、自分の人生の勝率、最高の勝率ということ考え切れていないからだだと思います。

社歴の長い幹部社員は特別な特別という意識を持つ

今の会社にいることが人生の最高の勝率ではないと考えて転職されてしまったら困るのですが、潜在意識というのはいつか顕在化します。したがって、幹部社員のそうした不安をコミュニケーションの中であぶり出していくのです。

人生は一度きりです。今の会社にいることに大きなメリットを感じるからこそ、15年20年いてくれるわけです。経営者として自分はそのことを考えていると話しながら、社歴の長い幹部社員は社員の中でも特別な特別だという意識を持って、コミュニケーションを深めるのは非常に大切なことです。

人事担当者が幹部社員と人生の勝率について話をしてみよう

顧問先でも在職15年以上の方が今までほとんど辞めなかったのに、最近はチラホラ辞める方が出てきている会社もあります。人生の勝率を考えると、その会社において大丈夫かなと感じるところがあるかもしれません。

人事担当者が幹部社員と積極的に話をして、人生の勝率についてコミュニケーションをはかるのもいいでしょう。幹部社員が会社のどこに不安や不満に感じているのか、反対にどんなところがいいと思っているのかが見えてくるでしょう。

経営へのヒントが見つかった意見を引き出す方法

例えばマイナス面として、55歳での役職定年があがるかもしれませんが。実は、私の顧問先でも役職定年を廃止した会社があります。今は人を採用しても簡単に辞めてしまいます。15年20年選手のような安定感はありません。ただし、20年選手の能力はだいたいわかっています。S評価は取れなくてもBバツの方はいないのです。ほとんどがミドル級以上です。緑があり、相性も合って、能力のある方が残っています。

そうした方に足りないところを求めていけません。人は足りないところだけを求めると限度がなくなります。足りないところを求めると、足りないところをしっかりとフォローしながら、文句ではない提案を求めます。そこから生まれる提案は有益だと思います。経営へのヒントがいっぱいつまんだ意見が出ることでしょう。

「この事務所通信を読んだら人生の最高の勝率に興味を持ったので、話をしてみないか」。そんなコミュニケーションのきっかけとして利用していただければと思っています。

私が「人生の勝率」という言葉を使う理由

今、私は「人生の勝率」という言葉を使っています。「人生の成功」と言い換えることもできますが、私はあえて「人生の勝率」と言っています。私の父親は麻雀が好きで、株の取引もしていました。私の家族にはけっこう勝負師の面があり、私にもその血は流れています。ただし、私はあえて投資などの勝負はしないようにしています。やっているのは元本が保証された投資ぐらいです。

成功と勝率は意味は似ているかもしれませんが、人間は率（確率）を考える生き物だと思っています。成功と言うと、プラスマイナスと言うよりも成功だけを見てもうよ

うな気がします。一方、勝率と言うと、もっと詳細に成功と失敗、良い面と悪い面、いろいろなことを取り入れられると考えます。

ビジネスタイムとはストレスタイムでもあります。人生の3分の1以上を働いている時間が占めていて、そこに人生を賭しているわけです。単なる成功ではなく、成功をさらに研ぎ澄ましたところに勝率がある。そう考えて、私はあえて勝率という言葉を使っています。

私はつねに楽観的な感情でいられる

コミュニケーションを円通にするには、投げかける側が引っ張り出してあげないといけません。そのなかで自分も磨かれていきます。コミュニケーションを円通にするのにはいちばん重要なのは、楽観的な感情だと思います。楽観的な感情とは、ちょっと軽い表現ですが「なんとかなる」です。私はいつもなんとかなると思っています。2、3年前、なんとかならないかもしれないと追いつめられた時もありましたが、それでも「なんとかなる」と口に出していました。すると、なんとかなりそうな気がするのです。

私がつねに楽観的な感情でいられるのは、毎朝トレーニングというストレスをかけていること、そして年に3回の減食、食をぐっと絞っているからです。減食も食欲を制限しているので、やはりストレスです。こうした訓練を習慣にしていると、ストレスをあまりストレスとは感じず、つねに楽観的な感情でいられるようになります。

ストレスの後には楽観が待っている

なぜ毎朝ストレスがかかるランニングが続くかというと、ストレスの後にはすぐ楽観がくるからです。走った後は終わったということで気持ちが楽になります。仕事も同じです。例えば大事なプレゼンがある、会議で重要な発表しなければいけない。そういうストレスを乗り越えた後は安心感、安堵感があるはず。

ストレスは苦しいだけではなく報われるもの

ビジネスタイムとはストレスタイムですから、もちろん私にもストレスはあります。それでも楽観的な感情を高めると、仕事程度のストレスであれば乗り越えることができるのです。ストレスは苦しいだけではなく、達成感によって報われるものなのです。

仕事のストレス耐性も同じです。報われるということを経験して教えることで、ストレスをかけることも続けられるし、ビジネスタイムというストレスタイムを受け入れることもできます。そうなれば、楽観的な感情が支配するなかで仕事と向き合っていけるはず。

今月は「人生の勝率」をテーマにしたコミュニケーション術、そして私流のストレスとの向き合い方を紹介させていただきます。



我が人生の勝率